

母の思いを胸に



CLOSE UP
大村人

大村公園に「濱田謹吾少年」の像があるのをご存じですか。これは、秋田県仙北市(旧・角館町)との友好の証として昭和61年に建てられ、今年で30年を迎えます。角館にも同じ像が建てられていて、2,000キロ以上も離れて向かい合っているそうです。

1868年、江戸幕府末期に起こった戊辰戦争。謹吾少年は、大村藩勤王三十七士同盟として活動してきた父に代わって、15歳の若さにもかかわらず出陣を懇願。兵隊を上げます鼓手として従軍が認められ、角館へ遠征したといわれています。ところが、戦地の戦いは激しく、志半ばでこの世を去りました。

大村兵や角館の人たちは、若い謹吾少年の死を悲しみ、手厚く葬りました。そのとき、『二葉より 手くれ水くれ待つ花の 君がみために 咲けやこの時』と、謹吾少年の衣服の襟に縫い付けてあった母が詠んだ歌に気づき、戦地に送りだす母の思いに心を打たれ涙しました。今でも角館では、大村兵や謹吾少年の活躍が語り継がれています。

このエピソードがあつて、旧・角館町と姉妹都市を提携し、36年。現・仙北市と今でも交流が続いています。6月には、謹吾少年の銅像建立30周年を記念する式典を行い、思いを馳せます。

家族を思い、若くして命を落とした謹吾少年と、遠く出陣するわが子への母の思いを、私たちはこれからも語り継いでいきます。

大村の偉人 少年鼓手 濱田 謹吾 少年



角館の武家屋敷

クローズアップ
大村人
vol.17

このコーナーは、ふるさとを思いながら、市内外で活躍する大村人、を紹介していきます。

Profile

はまだ・きんご
安政元(1854)年4月11日生まれ
大村藩士の父・濱田弥兵衛重義と母・チカの長男として現在の久原1丁目付近に生まれる。1868年、15歳という若さで大村藩北伐二番隊の兵士として出征し角館で戦死。大村・仙北市(旧角館町)両市に、同じ銅像を建立し、その功績が称えられている。

